

【受験歴】

私は、2018 年春先に中小企業診断士試験の学習を始め、その年一次試験で2科目（経済学、中小企業経営・政策）を科目合格、翌年残りの5科目を合格し、二次筆記試験で不合格となりました。

2019 年度から某通信教育の受験予備校に通い、一次試験の学習方法などには手応えを感じていたものの、二次筆記試験の突破を考えると、一次二次並行学習という性質上の答練数の不足と、通信講座のため、添削された答案が返却されるまで時間を要する点を不安に感じ、二次専門である MMC にお世話になることを決めました。

【MMC での学習について（事例Ⅰ～Ⅲ）】

「わかりやすく、伝わりやすい文章を書くこと」MMC での学習はこれに尽きると思います。切り口やキーワードマトリックスもわかりやすく書くためのツールの一つと理解しています。（ということで先生よろしいでしょうか。）

今、振り返るとものすごく当たり前のように感じていますが、2019 年度不合格だった時、この観点が欠如していたように思います。理由は、多くの受験予備校の模擬試験では「〇〇を書くと5点、××を書くと5点」などの形で採点されており、当時の私はより多くのポイントを詰め込むことに注力するあまり、全体としてわかりにくい文章になってしまいました。

「わかりやすい文章を書くこと」この心がけを持つだけで周囲の受験生より一歩リードすることができたと思います。

【MMC での学習について（事例Ⅳ）】

財務の事例は、とにかく多くの問題を、手順を飛ばさずに解くことをお勧めします。MMC では毎回講義の最後に財務の応用事例の問題を解きます。正直なところ難易度は高めに設定されているので、初見で解くのは困難です。

ただし、どんな問題でもきちんとした回答手順を踏めば正解に辿り着けるようにできています。正確な手順で繰り返し問題を解くことで身体に覚え込ませる。面倒ではありますが、財務の学習にはこれが一番のように感じました。

【最後に】

余談ですが、私は2020年春に転職を行い、仕事を通じて実際に何人かの中小企業の社長さんと話をする機会に恵まれました。中には、さながら事例文の如く何を言っているかわからない方や2020年事例Ⅰの第3問のように急に脈絡のないことを聞いてきたりする方も実際にいらっしゃいます。

しかし、わけのわからない現象に対して、自分も同様にわけのわからない対応をすることはならず、それが正解かはわからなくても一定の妥当性のある言動（試験では伝わりやすい文章を書く）をとること。診断士試験の学習を通じてこのことを学んだ気がします。

末筆ながら、講師の皆様、短い期間ながら本当にありがとうございました。また、2021年度合格講座受講の皆様のご合格を影ながら祈っております。